

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.273

2016年2月

HeForShe キャンペーン普及促進シンポジウムを開催

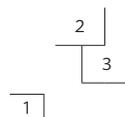


## 目次

●ニュース	
HeForShe キャンペーン普及促進シンポジウムを開催	3
キャンパスクリーンウィークを実施	4
本学学生が日本学生支援機構優秀学生顕彰で優秀賞を受賞	4
EducationUSA Leadership Institute 国際化推進フォーラムを開催	5
松本内閣府副大臣が本学を視察	5
パワーショベル寄贈目録キー受領式及び感謝状贈呈式を挙行	6
大学入試センター試験が実施される	6
●知の未来へ	
超高圧力環境を利用した新規物質探索	7
丹羽 健 (大学院工学研究科准教授)	
●知の先端	
「地」の「理」を俯瞰的に探るー活断層研究・災害地理学の視点ー	8
鈴木 康弘 (減災連携研究センター教授)	
●学生の元気	
平成27年度名古屋大学体育会会長表彰 表彰式	10
●部局ニュース	
第14回坂田・早川記念レクチャーを開催	11
第8回おもしろ科学教室を開催	11
ICCAE 2015年度第2回オープンセミナーを開催	12
ミクロの探検隊®を開催	12
第62回 NUMCo クリスマスコンサートを開催	13
第5回シンクロトロン光研究センターシンポジウムを開催	13
高校生防災フォーラムを開催	14
「障害者差別解消法」に関する全学構成員対象 FD・SD を開催	14
さくらサイエンスハイスクールプログラム (韓国) 受入れを実施	15
●名大を表敬訪問された方々	16
●新たに締結した学術交流協定	16
●構成員を対象とした研修	17
●INFORMATION	
平成27年度定年退職教授等の最終講義日程	18
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成27年12月16日～平成28年1月15日	19
●イベントカレンダー	22
●ちょっと名大史	
東山キャンパス四谷通東側エリアの変遷	24

# HeForShe キャンペーン普及促進シンポジウムを開催





- 1 ジェンダー平等クイズの様子
- 2 あいさつする総長
- 3 パネルディスカッションの様子

HeForShe キャンペーン普及促進シンポジウム「男性にとっての男女共同参画」が12月16日(水)、野依記念学术交流館において開催されました。本シンポジウムは、本学が国連機関 UN Women が行う「HeForShe キャンペーン」を推進する事業である「IMPACT 10x10x10」に、世界の10大学の1つとして選ばれたことを記念し、同キャンペーンを学内で広く周知するために開催されたもので、当日は、220名以上の教職員や学生が参加しました。

シンポジウムでは、まず松尾総長から「HeForShe キャンペーン」の紹介及び本学が同キャンペーンを推進する世界の10大学に選ばれた意義についての説明がありました。続いて、男女共同参画室長である東村副理事より「名古屋大学の男女共同参画の取り組み」についての解説がありました。さらに、三枝麻由美男女共同参画室助教より「ジェンダー平等クイズ」が行われ、会場全体でジェンダーについての認識等に関するクイズを行いました。

HeForShe とは、世界規模でジェンダー平等を推進する運動で、とりわけ男性が運動の主体になることを目的と



しています。そのため、シンポジウムの後半では、「男性にとっての男女共同参画」と題し、男女共同参画を推進することによる課題やメリットについて、男性側からの主張や視点によるパネルディスカッションを行いました。パネリストとして、渡辺理事、マシュー・リンリー国際教育交流本部特任教授、荒渡 良経済学研究科准教授、岩山賢史企画部企画課専門職員、生命農学研究科博士課程前期課程2年の佐々木拓弥さん、法学部2年の萩原健介さんの6名が登壇し、司会を

岡田副理事が務めました。パネルディスカッションでは活発な議論が行われ、男性の家事参画を実現するためのワークライフバランス推進の重要性や女性の活躍促進の必要性等が提案されました。

シンポジウム終了後には、100名近い男性がジェンダー平等を実現するために積極的に行動することを誓うHeForShe コミットメントに署名を行いました。

## キャンパスクリーンウィークを実施

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が12月7日(月)から11日(金)まで、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。

これは、環境保全に対する関心を高めるために、環境月間である6月と12月に平成元年から年2回実施しているものです。

本部事務局では、9日(水)の午後、寒さの緩んだ小春日よりの中、竹下事務局長、小松施設管理部長をはじめとする150名余りの参加者が、それぞれ担当する持ち場を中心に東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれて、空き

缶、紙くず、可燃・不燃ごみ、不要なビラの撤去等の清掃や回収作業を協力し合っていました。

作業場所によっては、袋いっぱいにごみを回収した参加者もあり、6月に行なった前回の清掃から、たった半年でこれほど多くのゴミが排出されるのかと驚かされる場面もありました。

本学では、今後も年2回のキャンパスクリーン（屋外清掃）を実施し、「ゴミのないきれいなキャンパス」を目指していきます。



本部前に集合する参加者



ごみを拾う参加者

## 本学学生が日本学生支援機構優秀学生顕彰で優秀賞を受賞

医学部保健学科理学療法学専攻4年生の永田健太郎さんが日本学生支援機構の平成27年度優秀学生顕彰で優秀賞を受賞しました。本顕彰での入賞は、昨年度に続き本学学生としては2人目となりました。

日本学生支援機構は、学術、文化・芸術、スポーツ、社会貢献、産業イノベーション・ベンチャー及び国際交流の

6分野について優れた業績をあげた学生を顕彰することにより、これらの活動をいっそう促進し、奨励援助しています。

永田さんは日本理学療法学生協会に所属しており、同協会の交流企画の一環として、自身の海外での学生交流会での経験から「Japan Study Tour」という企画を立ち上げ、大会長としてその運営に尽力しました。企画には日本、タイ、台湾、フィリピン、マレーシア、インドネシア、フランスの計7つの国と地域から総勢200名の参加者が集まり、各国の理学療法学についてのディスカッションやセミナーを通じて学術的な交流を行い、観光やパーティーによって親睦を深めました。この企画を通して国際的な繋がりが形成され、参加者やスタッフのモチベーション向上や就職の選択肢の広がりにも寄与しました。また、この活動は公益社団法人日本理学療法士協会発行「JPTA NEWS (2015年6月号)」にも大きく取り上げられ、国際交流分野において優れた業績をあげたとして、優秀賞を受賞しました。

12月12日(土)にはアルカディア市ヶ谷において表彰式ならびに祝賀会が行われ、永田さんとともに、石田和人医学系研究科准教授が出席しました。



国際交流分野の受賞者（左から2番目が永田さん）

## EducationUSA Leadership Institute 国際化推進フォーラムを開催

EducationUSA Leadership Institute 国際化推進フォーラムが、12月14日(月)、野依記念物質科学研究館において開催されました。本フォーラムは米国国務省助成金により、各大学に見合った学生のモビリティ推進の在り方を考えることを目的とし、九州大学、一橋大学と協力して開催され、学内外から100名を超える教職員が参加しました。



講演するティム・バーンズ氏

当日は、ジェイソン・ハイランド米国大使館首席公使が臨席し、フォーラム開催を祝福するあいさつが述べられました。その後、渡辺理事から本学を代表して開会のあいさつがありました。基調講演では、米国イリノイ大学のティム・バーンズ氏から、戦略的国際パートナーシップの役割やイリノイ大学のパートナーシップ戦略について、また、これまでの豊富な経験から、学生の海外派遣・受入れ、ひいては研究者交流を加速するメカニズムとなりうる戦略的パートナーシップについて講演が行われました。井上睦子文部科学省大臣官房国際課国際戦略企画室長による「それぞれの大学の国際戦略」と題した講演では、マクロの視点から日本における国際化の意義を再確認しました。各大学の特性を捉えた国際戦略ビジョンマッピングとミッション定義の講演は大変興味深く、改めて日本の大学の戦略的国際パートナーシップについて考える機会となりました。

このほか、EducationUSA Leadership Institute の研修に参加した本学教職員の報告のほか、本学における国際戦略の具体的事例が紹介されました。日本の大学でも国際化の取り組みが定着化しつつある中、本学の特長を踏まえた国際化戦略の必要性を改めて感じました。

## 松本内閣府副大臣が本学を視察

松本文明内閣府副大臣が、12月17日(木)、本学東山キャンパスの視察に訪れました。

松本副大臣はまず、IB 電子情報館を訪れ、松尾総長、國枝理事、竹下事務局長、財満副総長、天野 浩未来材料・システム研究所教授、西山崇志学術研究・産学官連携推進本部教授が出迎えました。最初に総長よりあいさつが述べ



説明の様子

られ、その後、國枝理事、天野教授から本学の概要、研究活動の取り組み等について説明が行われ、松本副大臣からは主に天野教授が取り組んでいるパワー半導体分野について熱心に質問が出されました。

引き続き、松本副大臣は天野教授の研究室を訪れました。出来真斗未来材料・システム研究所助教から研究内容等についての説明が行われ、その後、実験用のクリーンルーム室内を見学しました。

最後に、松本副大臣は減災館の視察を行いました。福和減災連携研究センター長から減災館の取り組みや館内の各展示について紹介があり、松本副大臣は時折質問を交えながら熱心に聞き入っていました。その後、減災館の特徴でもある、屋上の減災・体感実験室において実際の地震を想定した揺れを体験しました。

今回の視察を通じて、ノーベル賞に代表される本学の世界水準の研究活動とともに、防災という地域社会と一体となった取り組みに触れてもらい、本学にとって意義のあるものとなりました。

## パワーショベル寄贈目録キー受領式及び感謝状贈呈式を挙

名古屋市出身のプロゴルファーである服部真夕氏による名古屋大学基金へのパワーショベルの寄贈に対し、12月18日(金)、総長応接室において寄贈目録キー受領式及び感謝状贈呈式を挙



パワーショベル前での記念撮影(右が服部氏、左が総長)

す。

当日は、松尾総長、木村理事をはじめ、関係者列席のもと、総長が代表して目録キーを受領し、引き続き総長から服部氏へ、感謝状が贈呈されました。

その後のあいさつの中で、服部氏から、「貴学における教育・研究活動のために活用してほしい」との期待が述べられ、総長からは、「大学の教育・研究においては、野外でも様々な観察・実験・実習が行われており、いただいたパワーショベルは、農学部・生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センターで活用させていただきたい」と謝意が述べられました。続いて、下村生命農学研究科副研究科長から、同センターで行われている教育・研究活動の概要とパワーショベルの活用方法について説明があった後、改めて感謝の言葉が述べられました。

式典終了後には、豊田講堂前の芝生へ移動し、搬入されたパワーショベルの前で揃って写真撮影を行いました。

引き続き行われた懇談会では、総長から、「お互い『名古屋から世界へ』という目標を持つ同士として、これからもお付き合いいただければ」とのあいさつもあり、和やかで有意義な場となりました。

## 大学入試センター試験が実施される

—本学関係会場で約6,900名が受験—

平成28年度大学入試センター試験が、1月16日(土)、17日(日)の2日間実施され、本学関係会場では東山キャンパスのほか学外の高等学校の計7会場で約6,900名が受験しました。今年度の全国の志願者数は、前年度より4,636名多い563,768名となりました。

今年度は両日とも天候に恵まれ、快晴となりました。試



試験に臨む受験者

験1日目、会場には午前8時過ぎから受験生が集まり始め、参考書やノートで最終チェックをしている姿が見られました。また、東山キャンパスでは、地下鉄出口付近で、教師から激励を受け健闘を誓う受験生の姿も見られました。8時30分の入室開始と同時に、次々と試験室へ入室し、予定どおり試験が実施されました。

今年度はすべての出題教科・科目が、新学習指導要領に基づいた出題となり「工業数理基礎」を除き、経過措置は講じないこととなったため、昨年度のような複雑さはなくなりました。

また、松尾総長が各試験場を訪問し、試験場主任及び教職員に労いの言葉をかけました。

なお、本学の前期日程試験は、2月25日(木)、26日(金)及び27日(土)に、また、後期日程試験(医学部医学科)については、3月12日(土)に実施されます。

# 超高压力環境を利用した新規物質探索

大学院工学研究科准教授  
丹羽 健

気圧以上（実際には高温も必要）の条件で保持することで合成することができます。こうした超高压力環境は、ダイヤモンド以外にも優れた機能を持つ新物質の創製を期待させてくれます。我々は上記に示した高压発生装置を用いて、例えば、数万気圧の圧力領域で図2に示すようなサブミクロンサイズの中空角柱状の酸化物単結晶の創製に成功しました。また、高压下で合成された物質の中には、ダイヤモンドを凌ぐ硬さを有する物質の創製も報告され注目を集めています。その一方、超高压下における物質合成では、必然的に試料の大きさが小さくなるため、職人技のような手先の器用さが必要になる場合もあります。幸い私の所属している研究室では、卓越した技術と粘り強い精神力を持つ仲間に恵まれ、毎年新しいテーマで新物質の創製に挑戦しています。この先、超高压下における物質創製で世界をリードできる存在になれるよう、日々研究に取り組んでいきたいと思っています。

普段、我々は大気圧（≒ 1気圧）の環境で生活しています。その一方、大気圏を越えればそこは真空の宇宙が広がり、逆に足元から真下に約6400 km 進めば直接足を踏み入れることが不可能な超高温高压の地球深部の世界が存在します。我々が快適だと思っているこの世界も、地球表層のごく限られた一部で、そこから少し離れば大気圧環境こそむしろ特異であると感じます。

私が所属している研究室では、人類が到達不可能な、地球深部に対応する高温高压状態を実験室内で造りだし、それを化学反応場に利用した新物質創製に取り組んでいます。図1は我々が使用している超高压力が発生可能な装置です。手のひらに乗る大きさから、人の背丈以上のものまで目的に応じて様々な高压発生装置があります。現在では実験技術も進歩し、地球中心部に匹敵する400万気圧の圧力発生が可能となっています。超高压力下における物質創製の例として、宝石や切削工具に利用されるダイヤモンドがあります。ダイヤモンドは、我々がよく知っている黒鉛を5万

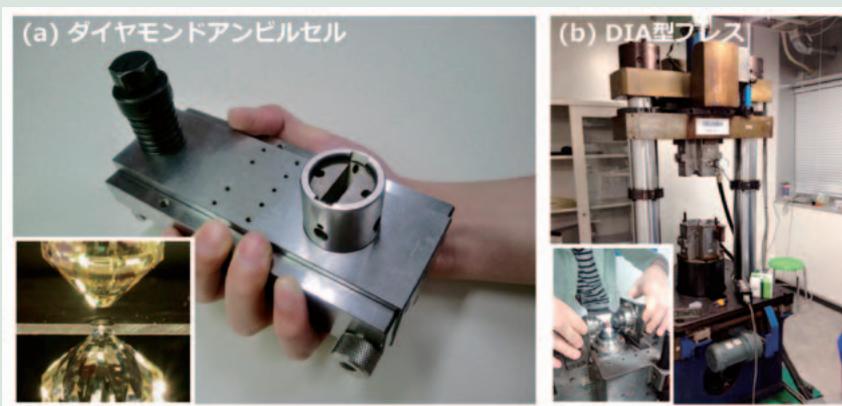


図1 代表的な超高压力発生装置  
(a) ダイヤモンドアンビルセル。装置全体は手のひらに乗るサイズ。1対のダイヤモンドによって試料を挟み高压力を発生させることができる。  
(b) DIA型プレス。油圧のプレスによって超硬性のアンビルをスライドさせ、中心部の立方体に圧力をかける。ダイヤモンドアンビルセルに比べて発生圧力は低い、大容量の試料が合成できる。

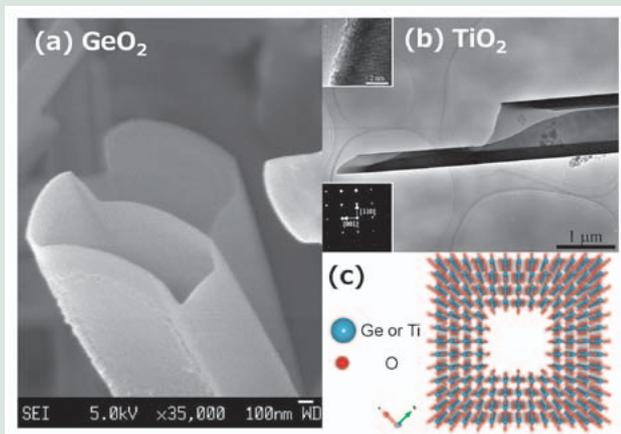


図2 超高压力下で合成された物質  
(a) (b) 超臨界酸素中で育成された中空角柱状の  $\text{GeO}_2$  および  $\text{TiO}_2$  単結晶。共にルチル型構造を有し  $\text{GeO}_2$  および  $\text{TiO}_2$  はそれぞれ 5 万気圧における超臨界酸素中、3 万気圧における超臨界水中で育成された。  
(c) 中空角柱状型結晶の形態と原子配列および結晶方位の関係。

# 「地」の「理」を俯瞰的に探る—活断層研究・災害地理学の視点—

鈴木 康弘 減災連携研究センター教授

## 大震災から学ぶ

地理学の学問体系は、東日本では理学、西日本では文学において発展し、地球を俯瞰して人文・自然現象の理（ことわり）を探究してきました。近年は学問の細分化により地理学が専ら扱う研究対象は少なくなりましたが、私が専門とする活断層は今もそのひとつです。

活断層は地下探査や地質調査によっても研究されますが、広域的な把握においては自然地理学（変動地形学）が有効です。地形は地殻変動や浸食堆積作用の複合により形成されるため、その成り立ちを解明することによって、断層活動の時期を特定し定量化することができるのです。1970年代以降、地形学と地質学は協力して活断層の活動履歴を調べ、地震発生予測に貢献してきました。

1995年にはその活断層が大規模に活動し、阪神・淡路大震災が起きました。地震後、震源となった活断層の掘削調査を行い、淡路島から神戸地域にかけて伸びる活断層が約2千年ぶりに活動したことを明らかにしました。しかし神戸地域では地表に地震断層が現れなかったため、今回活動した活断層の正確な位置や、震度7の被害集中域（「震災の帯」）が生じた詳細なメカニズムは不明でした。その後の調査により「震災の帯」の下にも活断層が存在していることを明らかにしました。

1980年に「日本の活断層」（東大出版会）が刊行された際、「活断層発見の時代は終わった」とも評されましたが、その後も調査手法の高度化により新たな発見が続きました。活断層地震は、1995年サハリン、1999年台湾、1999年トルコ、2004

年新潟県中越、2005年パキスタン、2005年福岡県西部、2007年能登半島、2007年中越沖、2008年岩手・宮城、2011年福島県浜通り、2015年長野県北部など続発し、その都度、新たな研究課題が提示されました。

## 自然の声に耳を澄ます

活断層研究の目的は、その本質的な成因や地学的影響を解明することと、個々の活断層の規模や活動歴を知ることにより地震発生の将来予測を行うことに大別できます。前者はアクティブテクトニクス（地殻変動論）として重要であり、後者は防災・減災の基礎として重要です。そのため、阪神・淡路大震災以降は国家プロジェクトにもなりました。活断層の掘削調査や、詳細な分布図（「都市圏活断層図」）づくりが始まりました。

震災後20年間、こうした活断層調査にチャレンジしてきましたが、新たな地震発生の度に予測の難しさを痛感します。例えば2007年には海域の活



敦賀原発敷地内の断層調査（原子力規制庁の資料より）

断層調査の限界、2008～2011年には小規模な活断層認定の問題点が露呈しました。また2015年の地震では、従来の予測より頻繁にやや小規模な活動が繰り返されている可能性が指摘されました。

東日本大震災後には、従来の原子力発電所の耐震安全規制が問題になり、活断層評価のあり方も見直されています。私も規制委員会の外部有識者として福井県敦賀原発の活断層調査を担いました。大地の動きを予測しようとする活断層研究は、少なくとも現時点では人知に限界があり、とくに活断層直近で起きる現象については十分解明されていません。自然に対して謙虚に向き合い、不確実性を考慮した対策のあり方が問われています。



モンゴル西部に今も残る1905年の地震断層の痕跡

## 防災・減災における国際連携

アジアの多くの国は地震防災の課題を抱えています。モンゴルも例外ではなく、全国的に活断層が分布し、20世紀前半には西部でM8クラスの大地震が連続しました。普段は地震活動が低調なため地震に対する警戒心は乏しく、地震対策が蔑ろにされがちです。近年急激な首都一極集中が起き、伝統的なゲル集落から高層ビルが立ち並ぶ街へと変貌する中で、地震を初めとする自然災害への備えは急務となっています。

モンゴル伝統の自然に配慮した遊牧生活や、その中で培われてきたレジリエントな（しなやかで強い）伝統知をいかに尊重して継承するかという問題も重要です。本学とモンゴル国立大学は、2016年2月、モンゴル国立大学内にレジリエンス共同研究センターを設置して、こうした問題をモンゴル社会と連携して議論する取り組みを始めようとしています。防災・減災における国際連携は、決して日本流を押しつけるのではなく、一緒に考えることから始めるべきだという思いを強くしています。



ウランバートル市内の再開発対象となっているゲル地区

名古屋大学減災連携研究センター教授、総長補佐、前災害対策室長  
1961年愛知県岡崎市生まれ。東京大学理学部卒。同大学院理学系研究科地理学専攻博士課程修了、博士（理学）。専門は変動地形学、地理学。日本学術会議連携会員、地震調査研究推進本部専門委員、原子力規制委員会外部有識者。日本地理学会代議員、日本活断層学会理事・事務局長。著書に「活断層大地震に備える」（ちくま新書）、「原発と活断層」（岩波科学ライブラリー）、「防災・減災につなげるハザードマップの活かし方」（岩波書店）、「活断層地形判読」（古今書院）、「地域環境の地理学」（古今書院）、「レジリエンスと地域創生」（明石書店）、「草原と都市」（風媒社）、「Disaster Resilient Cities: Concepts and Practical Examples」（Elsevier, in press）など。2015年10月より、全国の自然地理学者に呼びかけて、「科学」（岩波書店）にリレーエッセイ「地球を俯瞰する自然地理学」を連載中。

すずき やすひろ



平成27年度名古屋大学体育会会長表彰式

表彰式



平成27年度名古屋大学体育会会長表彰表彰式が、12月17日(木)に豊田講堂第1会議室において、名古屋大学体育会により挙行されました。

この表彰は、本学体育会に加盟するクラブが各種競技大会で優秀な成績を取った場合に、個人、団体及びその指導者の栄誉を讃え、その功績を広く顕彰することを目的としたもので、今回で27回

目となります。

今年度は、「個人の部」9名、「団体の部」8団体が本学体育会会長である松尾総長から表彰され、1年間のめざましい成果を讃えられました。

受賞した個人及び団体には、副賞として名古屋大学校友会から記念品等が贈呈されました。

平成27年度 名古屋大学体育会会長表彰 受賞者一覧 (表彰対象期間：平成26年11月1日～平成27年10月31日)

個人の部 (9名)

個人名	所属学部・学年	所属団体名	表彰要綱該当条項	出場大会名及び成績
1 関根 優佳	医(保)・4年	漕艇部	会長賞(第4条2項1号)	第70回 国民体育大会 ボート競技 成年女子 ダブルスカル 第4位
			会長賞(第4条2項3号)	平成27年度 関西選手権 競漕大会 女子シングルスカル 優勝
2 二宮 初音	経済・1年	フィギュアスケート部	会長賞(第4条2項2号)	第9回 西日本学生フィギュアスケート選手権大会 兼 第88回 日本学生氷上競技選手権大会選考会女子Cクラス 1位
3 日下 星野	理・3年	ライフル射撃部	会長賞(第4条2項2号)	第87回 中部学生ライフル射撃選手権大会 10m エアライフル立射60発競技 優勝
			会長賞(第4条2項3号)	第46回 国立大学ライフル射撃大会 10m エアライフル立射40発競技 第1位 10m エアライフル伏射60発競技 第1位 10m エアライフル膝射20発競技 第1位
4 千葉 尚彬	情報文化・4年	ライフル射撃部	会長賞(第4条2項2号)	第87回 中部学生ライフル射撃選手権大会 50m スモールポアライフル伏射60発競技 優勝
			参考記録	第26回 西日本学生ライフル射撃選手権 50m スモールポアライフル男子伏射60発競技 準優勝
5 中村 早智	文・4年(既卒)	航空部	会長賞(第4条2項3号)	第34回 東海・関西学生グライダー競技会 個人優勝
6 内藤 諒	経済・1年	馬術部	会長賞(第4条2項2号)	第50回 中部学生競技大会 総合馬術競技 個人第1位
7 池田 幸陽	医(医)・4年	ハンドボール部	会長賞(第4条2項3号)	平成27年度 東海学生ハンドボール 秋季リーグ戦 男子1部 得点王
8 國司 寛人	工・4年	陸上競技部	会長賞(第4条2項4号)	第81回 東海学生陸上競技対校選手権大会 男子10,000m 優勝
9 魚住 一郎	指導者(師範)	弓道部	会長賞(第4条2項5号)	名古屋大学弓道部を16年に亘り師範として指導し、弓道部発展のため貢献された

団体の部 (8団体)

団体名	表彰要綱該当条項	出場大会名及び成績
1 航空部	会長賞(第4条2項3号)	第34回 東海・関西学生グライダー競技会 団体優勝
2 馬術部	会長賞(第4条2項2号)	第50回 中部学生自馬競技大会 総合馬術競技 団体優勝
3 フィギュアスケート部	会長賞(第4条2項2号)	第9回 西日本フィギュアスケート選手権大会 兼 第88回 日本学生氷上競技選手権大会選考会 女子Cクラス団体 1位
4 ライフル射撃部	会長賞(第4条2項2号)	第87回 中部学生ライフル射撃選手権大会 10m エアライフル立射60発競技 団体優勝
	会長賞(第4条2項2号)	第44回 中部学生ライフル射撃三姿勢大会 10m エアライフル三姿勢3×20発競技 団体優勝
5 男子ラクロス部	会長賞(第4条2項2号)	第23回 東海学生ラクロスリーグ戦 優勝
6 ソフトテニス部	会長賞(第4条2項3号)	第54回 全国七大学総合体育大会 ソフトテニス 女子団体 第1位
7 体操部	会長賞(第4条2項3号)	第54回 全国七大学総合体育大会 体操 男子団体 第1位
8 女子バレーボール部	会長賞(第4条2項3号)	第54回 全国七大学総合体育大会 バレーボール 女子 連覇

## 第14回坂田・早川記念レクチャーを開催

●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、12月20日(日)、名古屋市科学館において、第14回坂田・早川記念レクチャーを開催しました。このレクチャーは、名古屋市科学館との共催によるもので、故坂田昌一・早川幸男両博士の業績をたたえつつ、21世紀を担う研究者の発掘及び育成を目的として設けられたものです。



講演の様子

今回は、日本を代表する X 線天文学者である小山勝二京都大学名誉教授によるレクチャーが行われ、「平安の陰陽師が超新星爆発を観測していた?!」と題して1000年前の「歴史的」な超新星爆発にまつわる講演が行われました。

超新星爆発は、質量の大きな星が進化の終末に起こす大爆発のことです。非常に大きなエネルギーを放出し、その衝撃波に襲われた周囲の物質は超高温に加熱され、分子は壊され、原子からは電子が剥ぎ取られます。さらに星の内部で作られた様々な元素を宇宙空間にまき散らし、また大量のニュートリノが発生します。

「寛弘3年の春に起きた超新星爆発は、平安の人たちの目にどのように映ったのか」という興味深い話に、高校生を含む約300名の聴衆が聞き入りました。

## 第8回おもしろ科学教室を開催

●大学院工学研究科

大学院工学研究科では、1月11日(月・祝)IB電子情報館において、「おもしろ科学教室」を開催しました。この催しは、本学の地域貢献特別支援事業として、青少年の科学技術への理解増進を目的に、他の教育研究機関や学会・協会等とも連携して開催しています。第8回となる今回は、本学を含め、15の機関が協力して実施しました。



講演に聞き入る参加者

最初に、加納政芳中京大学情報理工学部教授が「人と生活するロボットをつくるためには」と題した講演を行い、人の体にどのような知覚器官、つまりセンサーがあるか、あるいはロボットの制御方法など、聴衆の児童とやり取りしながら、平易で分かり易い説明がありました。また、加納教授らの開発した赤ちゃんロボットの紹介もあり、小学校低学年の児童を中心に、会場から活発に質問が出るなど、興味深く聞いている様子でした。続いて、日本弁理士会東海支部による電子紙芝居「『発明』、『特許』ってなあに? -パン職人レオ君ものがたり-」が上演され、発明保護の重要さや弁理士の役割などが分かり易く解説されました。これらの講演の前後に参加者らは各団体のブースを自由に見学し、LED信号機や大気圧プラズマなど、様々な科学技術を利用した展示物に興味深そうに触れたり、実演に見入ったりしていました。

後半にはLED万華鏡、光ファイバー音声通信機、電気自動車など、理科の原理を応用した実験工作や、電波を使った鬼ごっこなど、事前に申し込んだテーマに取り組みました。なかには少し手間取る児童もいましたが、最後には全員が作品を完成させ、科学の面白さを堪能した様子でした。

## ICCAE 2015年度第2回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、12月15日（火）、2015年度第2回オープンセミナーを開催しました。今回は、二木 光元JICA 国際協力専門員による「アフリカ開発の阻害要因と日本の役割」と題した講演が行われました。

二木氏は講演の中で、JICA 専門家としてスーダン、ボ



講演を行う二木氏

リビア、エジプト、バングラデシュ、ザンビア、東ティモール、ケニア等で活動してきた長年の経験に基づき、アフリカ開発の阻害要因や貧困と飢餓の実態について具体例を交えて講述するとともに、協力を行ってきた日本の特質について、日本人のもつ価値観や共同体精神、技術開発への熱意と継承、国の意識などをアフリカと対比することにより浮き彫りにしました。さらに、アフリカ開発のためには、日本の凹型文化と価値観を重視した支援を孤立地帯の小農を対象に行うことが必要であり、このことがガイア（地球生態系）の持続性の鍵を握るものであるとの説明がありました。

講演後には、国際協力やアフリカの農業と開発に関心を持つ多数の参加者との間で活発な質疑応答が行われ、盛況なセミナーとなりました。

## ミクロの探検隊®を開催

●博物館

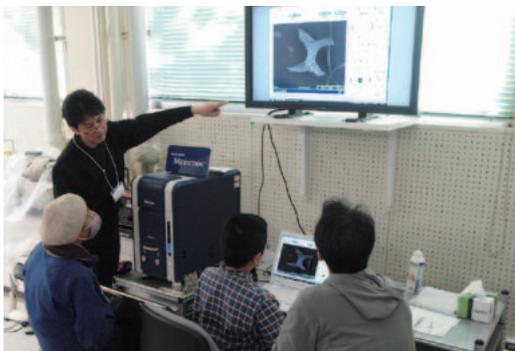
博物館では、12月19日（土）、ミクロの探検隊®「ミクロの世界をのぞいて放散虫の進化に触れよう！－電子顕微鏡のふしぎ」を開催しました。今回は小学5年生から大人までの21名が参加しました。

放散虫は単細胞生物のプランクトンで、現在も海で生きていますが、微化石としても存在します。今回は鶴沼の木曽川の河畔から採集したジュラ紀のマンガンノジュールの中の放散虫を使用しました。石から取り出した放散虫は、肉眼で見るとただの砂粒としか見えません。その砂粒のよ

うな放散虫を実体顕微鏡下で面相筆を使って一粒一粒拾い出すという難しい作業にも挑戦しました。その後の走査型電子顕微鏡での観察は、その美しい姿に驚きと歓声が沸きました。さらに同定できない放散虫も『すべての放散虫に名前が付けられているわけではない、新種かもしれない＝科学は分からないことがいっぱい』ということなど、普段の勉強では考えられないことを体験しました。「知りたい・観察したい」という知的好奇心で、目を輝かせながら真剣に取り組む参加者の姿が見られました。



面相筆を用いて放散虫を拾い出す参加者



自ら電子顕微鏡を用いて説明を受ける参加者

## 第62回 NUMCo クリスマスコンサートを開催

### ●博物館

博物館では、12月24日(木)のクリスマスイブ、「第62回 NUMCo クリスマスコンサート」を開催しました。今回は、名古屋市を中心とした小中高生で結成されている「フリーヒルズジャズオーケストラ」による演奏が行われました。千種区の自由ヶ丘で結成されたことがグループ名の由来です。



コンサートの様子

全国大会などで優秀な成績を収めているビッグバンドであり、聴いている側も若返りするような元気のある音が特徴的です。252名の聴衆は「ジングルベル」や「ホワイトクリスマス」をはじめとする全11曲を楽しく聴き、クリスマス気分になりました。

NUMCo (ナムコ) とは、「Nagoya University Museum Concert」の頭文字を取っただけではなく、「名古屋大学に芸術の夢が来る」から『名・夢・来』の願いが込められています。また、博物館行事の中でもコンサートは人気が高く、毎回多くの方が音楽を目的に来館しますが、同時に同館や展示について知ってもらいたい良い機会となっています。今回も「今日のコンサート良かったね」、「今度はいつあるのか」、「今度はゆっくり展示を見に来たい」など多くの感想が聞かれました。

今年も引き続きナムコを開催しますので、ぜひ、同館へ足をお運びください。

## 第5回シンクロトン光研究センターシンポジウムを開催

### ●シンクロトン光研究センター

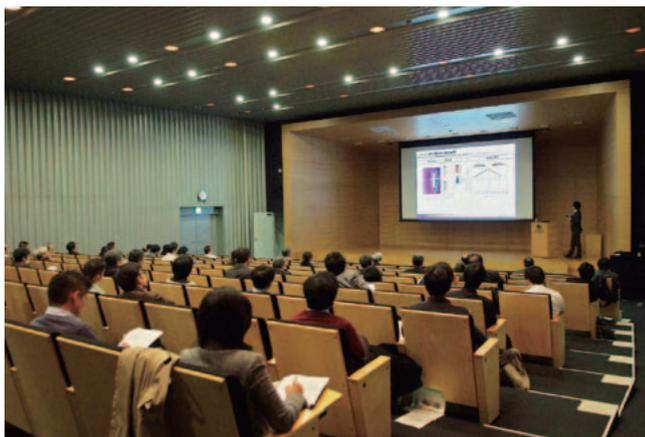
シンクロトン光研究センターは、1月14日(木)、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて、第5回シンクロトン光研究センターシンポジウムを開催しました。

同センターは、平成19年4月1日に「小型シンクロトン光研究センター」として発足し、平成25年3月から供用が開始された愛知県「知の拠点」の「あいちシンクロトロン

光センター」における光源及びビームラインの基本設計の段階から現在のユーザ支援に至る協力を行っています。

シンポジウムは、國枝理事、新美工学研究科長、曾田シンクロトン光研究センター長のあいさつに始まり、「放射光科学の広がり」と題して、学内をはじめ、産官学の研究者14名から、あいちシンクロトン光センターの利用事例を中心とする最新の研究成果について講演が行われました。特に、伊中浩治株式会社丸和栄養食品代表取締役による「あいちSRを用いた産業利用目的の蛋白質構造解析」、和知野純一医学系研究科助教による「多剤耐性菌が産生する抗菌薬不活化酵素の構造機能解析」の2件では、産学の研究者による「単結晶X線回折・名古屋大学ビームライン」BL2S1の活用状況が報告されました。講演後には、名古屋大学放射光利用者懇談会が開催され、活動状況、BL2S1利用状況などについて説明がありました。

講演中は活発な議論が行われ、関心と期待の高さがうかがえるシンポジウムとなりました。今後は、光源加速器及び既設ビームライン性能のさらなる向上、ビームラインの新設とともに、学内潜在ユーザへ利用支援を進めていく予定です。



会場の様子

## 高校生防災フォーラムを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、12月25日(金)、減災館において、高校生防災フォーラムを開催しました。これは、愛知県における未来の防災リーダーの養成を目的に愛知県防災局、教育委員会との共催により毎年開催している「高校生防災セミナー」の一環であり、同セミナー参加校による成果発表会が行われました。



発表の様子

「高校生防災セミナー」には毎年、愛知県内の15の高校が参加し、各校代表の生徒らは、夏休み中の4日間、本学教員や防災関係者による講義・演習を受講し防災への知識を高めた上で、それぞれの高校で独自の防災・減災活動や生徒・地域への啓発活動などを展開してきました。そして年末に開催され締めくくりとなるこの成果発表会で、活動成果や問題点について発表や意見交換を行いました。

フォーラムでは午前中、約160人の参加者を前に、代表校6校(6期校3校、5期校3校)がこれまでの活動内容を、パワーポイントなどを使って紹介しました。高校内だけでなくとどまらず地域住民や地元の小学校、保育園などをまきこんだ活動の事例や、防災新聞を発行して生徒への情報発信をした事例、長距離の通学をしている生徒の帰宅困難問題に取り組んだ事例などが発表され、減災連携研究センターの隈本邦彦客員教授や近藤ひろ子防災アドバイザーからの講評を受けました。

午後には、6つのグループに分かれての発表や討論、市町村の防災関係者や防災ボランティアの方を交えた意見交換会なども行われました。また、今年度で2年間の活動を終える5期校15校への修了式も行われました。

## 「障害者差別解消法」に関する全学構成員対象 FD・SD を開催

●学生相談総合センター

学生相談総合センターは、1月7日(木)、ES総合館において、「全学構成員対象FD・SD『合理的配慮』とは何か：誰に？どのように？-東京大学バリアフリー支援室の取組から学ぶ-」を開催しました。東京大学は、いち早く大学憲章において障害のある構成員に対する差別や不平等を禁止するなど、高等教育機関における障害者対応で先駆



講演に熱心に耳を傾ける参加者

的立場にあります。今回、東京大学から桑原 斉准教授と中津真美特任助教の2名を招き、合理的配慮を適切に提供するための体制や実践に関する講演が行われました。

講演では多くの有用な情報が紹介されました。発達障害学生へ合理的配慮を行う際には、医師の診断、授業担当教員や合理的配慮が提供される現場に詳しい教職員の判断、障害者支援の専門家を含む全学的組織による判断の3つが必要不可欠であり、特に専門家を含む全学的組織による判断においては、障害者から求められた配慮が、過重な負担でないか、事業の本質を逸していないかの判断や、対応の学内格差を是正する上で重要であることが述べられました。また、合理的であるためには論理的でなくてはならないという点にも触れ、障害者への対応は、ともしれば情緒的で共感的になりがちであるが、障害のある者となない者の平等を確保するためには、冷静で客観的な判断が求められることなどが述べられました。

いよいよ今年4月から障害者差別解消法が施行されますが、本学では全学的な取り組みがまだ十分であるとはいえません。今後、体制整備に向けた全学的な議論を進めていく必要性を強く感じる講演となりました。

## さくらサイエンスハイスクールプログラム（韓国）受入れを実施

●素粒子宇宙起源研究機構

素粒子宇宙起源研究機構では、1月12日(火)、科学技術振興機構主催による「さくらサイエンスハイスクールプログラム（韓国）」を通じて、韓国からの訪日団（高校生30名及び引率者）を受け入れました。

午前中は、素粒子宇宙起源研究機構副機構長である國枝理事による大学・留学生制度の紹介の後、本学に在籍する



飯嶋センター長（中央）を囲んでの記念撮影

韓国人留学生7名を交えた懇談が行われ、和やかな雰囲気の下、率直な意見交換が行われました。

交流を兼ねた昼食会を挟み、午後からは、飯嶋現象解析研究センター長による「暗黒宇宙の謎」に関する講義が行われました。未だ解明されていない暗黒物質を解明する最先端の研究プロジェクトの紹介や、本学の研究の特色・伝統に関する話などに、午後から加わった名城大学附属高等学校一行（1年生37名及び教員）と共に熱心に聞き入り、講義後の質疑応答も活発に行われました。

その後、本学学生引率の下、数グループに分かれ、学内のキャンパス施設見学及び研究室訪問を行いました。

高校生達は、本プログラムを通じ、本学及び素粒子宇宙に関する研究に触れる貴重な体験をするとともに、日韓高校生同士の交流を深め、有意義なプログラムとなりました。

## 名大を表敬訪問された方々 [平成27年10月16日～平成28年1月15日]

日付	国/地域	訪問者	目的
11月2日	ロシア	クラスノヤルスク地方政府からリヤザンツェワ・ナターリア副議長 他5名	表敬あいさつ及び学内施設見学
11月18日	韓国	漢陽大学からイ・ヨンム学長他3名	表敬あいさつ及び意見交換等
11月27日	ドイツ	フライブルク大学からグンタ・ノイハウス副学長	意見交換
11月30日	中国	同済大学から裴鋼学長他2名	表敬あいさつ及び学内施設見学
12月1日	フランス	ストラスブール大学からキャサリン・フローレンツ副学長他5名	表敬あいさつ及び意見交換等
12月2日	オーストラリア	駐日オーストラリア大使館からブルース・ミラー特命全権大使	表敬あいさつ及び博士課程教育リーディング プログラム「PhD プロフェッショナル登龍門」 国際情勢講座講演
12月4日	米国	ノースカロライナ州立大学からマーク・ホイット副学長	表敬あいさつ及び学内施設見学
12月4日	モンゴル	モンゴル国厚生省派遣医療者18名	表敬あいさつ及び学内施設見学

## 新たに締結した学術交流協定 [平成27年10月16日～平成28年1月15日]

### 大学間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名
10月25日	ウズベキスタン	タシケント工科大学・筑波大学
11月3日	米国	アイオワ州立大学
11月10日	韓国	韓国海洋大学校
11月27日	ノルウェー	オスロ大学
12月29日	ポーランド	ポーランド科学アカデミー高圧研究所

### 部局間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名	部局名
7月24日	フィリピン	フィリピン大学マニラ校看護学部・看護系研究科	医学部・医学系研究科
9月15日	米国	アクロン大学法科大学院	法学部・法学研究科
11月1日	中国	北京師範大学教育学部	教育学部・教育発達科学研究科
11月10日	タイ	チェンマイ大学経済学部	国際開発研究科
11月20日	ドイツ	ライプニッツ生態都市・地域開発研究所	環境学研究科
11月23日	中国	中国山東省科技発展戦略研究所	環境学研究科
11月25日	韓国	延世大学校理科大学	理学研究科
12月8日	ミャンマー	ヤンゴン大学数学科	多元数理科学研究科
12月14日	フィリピン	デラサール大学工学部	工学部・工学研究科環境学研究科

構成員を対象とした研修 [平成27年10月16日～平成28年1月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
10月7日(水) 10月8日(木) 10月13日(火) 10月20日(火) 10月22日(木) 10月29日(木) 11月13日(金)	平成27年度 個人情報と情報セキュリティ研修会 「職種別個人情報保護研修」	個人情報保護と情報セキュリティについてより理解を深めるため	1,442名
10月16日(金)	第5回 NST 学習会「栄養剤と輸液の基礎」	新人看護師等へ栄養管理の必要性について学習してもらい、医療知識の向上に努めるため	61名
10月20日(火)	平成27年度愛知地区国立大学法人等 退職準備セミナー	定年退職予定者に、退職に当たっての心構えと退職後の生活設計に必要な知識を提供。今後の社会生活、家庭生活の基盤づくりに役立てる	84名
10月21日(水)	メンタルヘルス講習会(セルフケア)	ストレス及びメンタルヘルスケアに関する基礎知識を理解するとともに、ストレスへの気づきと対処法を身につけ日常業務での実践につなげる	43名
10月21日(水)	メンタルヘルス講習会(ラインケア)	ストレス及びメンタルヘルスケアに関する基礎知識を理解するとともに、上司が部下の心の健康づくり対策のための日常行動について理解を深める	10名
10月23日(金)	第2回 TOEIC IP テスト	特に若手職員を対象に受験の機会を提供することにより、自己の実力を知り、自身の自己啓発の動機づけに繋げる	16名
10月27日(火) 11月2日(月)	平成27年度中期感染対策研修 (院内感染対策講演会)	院内感染対策推進のため	932名
10月28日(水)	公開学習会「抗がん剤における暴露対策」	抗がん剤は危険物であるため、職員の身を守るためにもリスクと暴露対策について知識の向上を図る	80名
11月6日(金)	第5回 NST 学習会 「嚥下のスキルチェック」	嚥下困難な患者への対応知識を予め学んでもらった看護師に対し、実技指導を行い、実践で役立ててもらおうための技術向上を図る	12名
11月10日(火)	メンタルヘルス講習会(セルフケア) 【鶴舞地区】	ストレス及びメンタルヘルスケアに関する基礎知識を理解するとともに、ストレスへの気づきと対処法を身につけ日常業務での実践につなげる	64名
11月10日(火) ～12月1日(火)	名古屋大学事務系職員中期海外研修	事務職員の実践的な国際対応力の強化等を図るため、本学海外拠点及び本学と協定を結んでいる協定校等において実務研修を実施し、海外拠点で必要な事務業務等を経験することにより、海外キャンパス設置に資する職員及び国際化に対応した職員を養成する	1名
11月11日(水)	人工呼吸器セミナー 27年度 第2回 『人工呼吸器装着患者への口腔ケア』	マスク型の人工呼吸器を使用している患者は、感染予防が重要で、そのためには口腔内を清潔に保つ必要があることからその知識の向上を図る	39名
11月13日(金)	労働関係法セミナー	本学の労務・福祉関係業務の担当者が、労働基準法等の関係法令の知識を身に付け、業務の的確な遂行に役立てるために実施する	44名
11月19日(木)	第1回褥瘡対策チームスキルアップ セミナー(リハビリ)	褥瘡を予防するためには除圧や体位変換が重要で、患者のポジショニングを決定するために理学療法士による講義・実技指導を行うことで知識向上を図る	4名
11月19日(木) 11月24日(火) 11月25日(水) 11月26日(木) 11月30日(月)	財務会計システムパネル説明会 (東山、鶴舞、大幸の各地区)	平成28年度から運用を開始する財務会計システムについて、運用方法及び操作入力画面毎に入力項目、入力方法などの説明・周知することを目的とする	約1,200名
11月27日(金)	第17回教務学生事務担当者実務研修	教務学生事務の実務を担当する職員の資質向上を目指し、教育・学生支援に関する業務の円滑な処理に必要な知識を習得させることにより事務能率の向上を図る	71名
11月30日(月) ～12月1日(火)	平成27年度 会計基準研修	国立大会計基準を理解し、本学における財務会計処理の理解を深め、財務会計処理における説明責任を果たすための知識を習得することを目的とする	28名
12月4日(金)	名古屋大学事務系職員企画力向上研修	業務上の問題点や改善点についての改善企画から提案に至るまでの方法について学び、職員の企画力及びプレゼンテーション能力の養成を図る	20名
12月14日(月)～ 17日(木)	平成27年度(後期)医療安全・感染対策・ 医薬品安全研修	良質な医療を提供する体制の確立及び個々の安全に対する意識の向上を図るとともに、院内感染対策や個人情報保護を推進するため	1,402名
1月7日(木)	第3回 TOEIC IP テスト	特に若手職員を対象に受験の機会を提供することにより、自己の実力を知り、自身の自己啓発の動機づけに繋げる	61名

## 平成27年度定年退職教授等の最終講義日程

下記の情報は、2月1日現在のものです。詳細については、問い合わせ先にご確認ください。

所 属	氏 名 職名	月 日	時 間	場 所	講義題目	問い合わせ先
文学研究科	稲葉 伸道 教授	3月12日(土)	13:45~15:30	文学部 237講義室	研究の軌跡と展望	文系総務課総務グループ (文学担当) 052-789-2202
教育発達科学研究科	寺田 盛紀 教授	2月23日(火)	15:00~16:30	教育学部 大講義室	国際比較とキャリア形成の視点に基づく職業教育学	山下廉太郎教育発達科学研究科助教 052-789-5057 yamashita.rentarou @b.mbox.nagoya-u.ac.jp
法学研究科	小野 耕二 教授	2月13日(土)	15:30~17:15	法学部 第3講義室	政治への新たな視座	田村哲樹法学研究科教授 052-789-2326
	森際 康友 教授	3月21日(月・祝)	15:00~16:30	経済学部 第1講義室	正義と法—法システムにおける正義概念の働き—	鈴木慎太郎愛知学院大学 法学部准教授 0561-73-1111 (内線3542)
経済学研究科	荒山 裕行 教授	3月5日(土)	13:00~14:30	経済学部 第2講義室	『家計内生産関数』の研究を通して見えたもの	文系総務課総務グループ (経済担当) 052-789-4920
理学研究科	上羽 牧夫 教授	3月7日(月)	15:00~	理学部 B501 (第4講義室)	結晶成長とパターン形成の物理	紺谷 浩理学研究科教授 052-789-2912 kon@slab.phys.nagoya-u. ac.jp
	小田 洋一 教授	3月11日(金)	16:30~17:30	理学南館 坂田・平田ホール	脳回路の成り立ちとはたらき	小橋常彦理学研究科 特任講師 052-789-2980 kohashi-t@bio.nagoya-u. ac.jp
医学系研究科	小島 勢二 教授	3月18日(金)	16:00~	基礎研究棟(講義棟) 4階 第4講義室	小児骨髄不全症の診断と治療の進歩	医学部・医学系研究科 総務課 学部事務係 052-744-2774
	鈴木 國文 教授	3月5日(土)	14:00~15:30	大幸キャンパス東館 4階 大講義室	精神病理・社会・作業療法	星野藍子医学系研究科助教 052-719-3176
	石樽 信人 教授	3月7日(月)	13:30~14:30	大幸キャンパス東館 4階 大講義室	内部被ばくの評価に関わってきて	島本佳寿広医学系研究科 教授 052-719-1562
	平井 眞理 教授	3月8日(火)	13:00~14:00	大幸キャンパス東館 4階 大講義室	心電図と私	前川厚子医学系研究科教授 052-719-3150
工学研究科	大野 信忠 教授	3月1日(火)	15:00~16:30	工学部2号館南館 4階 241講義室	「固体力学研究40年余： クリーブ損傷力学から均質化法へ」	工学部総務課総務係 052-789-3402
	鈴置 保雄 教授	3月3日(木)	15:00~	IB 電子情報館 1階 015講義室	「定年雑感」	工学部総務課総務係 052-789-3402
	金武 直幸 教授	3月4日(金)	15:00~16:30	ES 総合館1階 ES ホール	「教育に魅せられて —学生と向き合った38年—」	工学部総務課総務係 052-789-3402
	小野木克明 教授	3月7日(月)	15:00~	工学部1号館 2階 121講義室	「連続から離散へ」	工学部総務課総務係 052-789-3402
	西山 久雄 教授	3月14日(月)	16:00~	ES 総合館1階 ES ホール	「有機合成研究： 不斉と有機金属に魅せられて」	工学部総務課総務係 052-789-3402
	吉川 典彦 教授	3月22日(火)	15:00~	工学部2号館南館 4階 241講義室	「水素爆発と私」	工学部総務課総務係 052-789-3402
	松田 仁樹 教授	実施しない				

## INFORMATION

所 属	氏 名 職名	月 日	時 間	場 所	講義題目	問い合わせ先
環境学研究科	古本 宗充 教授	3月18日(金)	16:15~17:15	環境総合館 1階 レクチャーホール	40年を振り返って	環境学研究科附属地震火山 研究センター秘書 大森治美: ohmori @seis.nagoya-u.ac.jp 金原みどり: kanahara @seis.nagoya-u.ac.jp 古本宗充教授: furumoto @eps.nagoya-u.ac.jp 052-789-3040
	林 良嗣 教授	3月23日(水)	15:00~	環境総合館 1階 レクチャーホール	未定	林良嗣教授秘書 竹内裕子: hys_h_sec @urban.env.nagoya-u.ac.jp 052-789-2773
情報科学研究科	小澤 正直 教授	3月5日(土)	11:00~12:30	情報科学研究科棟 1階 第1講義室	量子情報科学の発展	情報文化学部・情報科学 研究科庶務係 052-789-4716
	大西 昇 教授	3月4日(金)	15:00~16:30	IB 電子情報館 1階 IB015講義室	生体情報処理と私 + $\alpha$	工藤博章情報科学研究科 准教授 052-789-3098
	茂登山清文 教授	実施しない				
宇宙地球環境 研究所	藤井 良一 教授	3月11日(金)	16:00~17:00	ES 総合館 1階 ES ホール	「四十年のオーロラ科学研究を振り 返って」	野澤悟徳宇宙地球環境 研究所准教授 052-789-4303
	中村 俊夫 教授	3月19日(土)	15:00~16:30	環境総合館 1階 レクチャーホール	「加速器質量分析による放射性炭素 年代測定と向き合った35年間」	宇宙地球環境研究所 年代測定研究部事務室 052-789-2579
情報基盤 センター	石井 克哉 教授	3月2日(水)	16:30~18:00	IB 電子情報館 1階 015室	多様性を観る	情報基盤センター・石井 研究室 荻野正雄准教授 052-789-5899

## 本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年12月16日~平成28年1月15日]

記事	月日	新聞等名
1 井上科学振興財団 2015年度井上學術賞：犬塚修一郎理学研究科教授	12.16 (水)	日刊工業
2 第4回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト：文部科学大臣賞（最優秀賞）菊池達也さん本学4年生	12.16 (水)	読売
3 日刊工業新聞 創刊100周年感謝の集い名古屋 中部のモノづくりの未来を考える開催：10月15日 パネリスト トヨタ自動車株式会社社長内山田竹志氏本学卒業生	12.16 (水)	日刊工業
4 第31回博物館企画展北の縄文人ー豊かな海と山にかこまれてー開催：11月10日~2016年1月23日	12.16 (水) 1. 6 (水)	朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊)
5 HeForShe キャンペーン普及促進シンポジウム「男性にとつての男女共同参画」開催：16日 松尾総長は「育児や家事を協力し合うことで、子育ての喜びや価値観を共有でき、平和で豊かな社会ができる」と語る	12.17 (木)	中日 (朝刊)
6 リオへ2016：実業団女子駅伝 5人抜き力走 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生	12.17 (木)	中日 (朝刊)
7 福和伸夫減災連携研究センター教授は内閣府の長周期地震動の評価について「政府が超高層建物の地震対策でようやく一歩を踏み出した。どのように後押しをして個々の建物の検証を進めていくかが今後の重要な課題だ」と語る	12.18 (金)	中日 (朝刊) 他2社
8 本学の艇庫がある中川区庄内川の河川敷を本学ボート部員らが清掃し、永井英志さん工学部3年生は「なかなかごみは減らないが、少しでもきれいになってくれれば」と語る	12.18 (金)	中日 (朝刊)
9 藤田耕史環境学研究科准教授の研究グループが今年4月に起きたネパール大地震で発生した地滑りが、ヒマラヤ山脈に近い地盤が沈降した地帯に集中していたことを明らかにし、ネパール人留学生2名が分析を担当した	12.18 (金)	中日 (夕刊)
10 政府が地方創生の一環として検討する政府機関の移転構想で茨城県つくば市の産業技術総合研究所先進パワーエレクトロニクス研究センターが本学の窒化ガリウム化合物研究と連携体制を構築することを検討	12.18 (金) 12.19 (土)	中日 (朝刊) 中日 (夕刊) 読売
11 本学に女子プロゴルファー服部真夕氏がパワーショベル1台を寄贈し、松尾総長は「服部さんの公共心あふれる志に感謝の念でいっぱいです」と語る	12.19 (土)	読売
12 クリックオピニオン:「第九」をめぐる歴史 戦後初めて医学部合唱団が東京のオーケストラに協力したことや、1962年に本学や南山大学の管弦楽団と OB たちによる名古屋オーケストラ連盟と愛知県合唱連盟が「地元400人による“第九”演奏会」を開催したことが取り上げられる	12.19 (土)	毎日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年12月16日～平成28年1月15日]

記事	月日	新聞等名
13 政治と建築の蜜月 壮大な新国立求めた空気 榎 文彦本学名誉博士は「五輪開催後に膨大な維持費がかかり、負の遺産になってしまうのではないかと語る	12.19 (土)	朝日 (朝刊)
14 第42回大佛次郎賞:回想記「朝鮮と日本に生きるー済州島から猪飼野へ」金時鐘氏 池内 了本学名誉教授の選評 苦い過去を示す勇氣	12.20 (日)	朝日 (朝刊)
15 ひゅ～まん愛知:本質問研究 のめり込む 社会に役立つ道模索 戸田山和久情報科学研究科教授	12.21 (月)	読売
16 本学や愛知県がんセンター愛知病院などが血液中にわずかにあるがん細胞を見つけて取り出す検査装置を開発したことが取り上げられる	12.21 (月)	日経 (朝刊)
17 公衆電話 災害備え新設 福和伸夫減災連携研究センター教授は「災害時に何よりも大事なのは通信の確保。公衆電話の維持が難しくなっている中、社会全体で通信をどう確保していくかを考える時にきている」と語る	12.21 (月)	中日 (朝刊)
18 「防災とボランティア週間」講演会 災害に備え、地域連携力を高める開催:2016年1月16日 福和伸夫減災連携研究センター教授が「巨大地震を前に総力と本気の地震対策」をテーマに講演	12.21 (月)	中日 (朝刊)
19 「坂田・早川記念レクチャー」開催:20日 小山勝二本学元助教授が「平安の陰陽師が見た宇宙線加速源」をテーマに講演	12.21 (月)	中日 (朝刊)
20 本学と理化学研究所、フランス・パリ高等師範学校生物学研究所は共同で、脳の抑制性神経伝達効率の増加と減少が、グルタミン酸とカルシウム2つのシグナル物質の使い分けにより、選択的に引き起こされることを明らかにした	12.22 (火)	中日 (朝刊)
21 多元数理科学研究科長に納谷 信同教授を選出	12.22 (火)	中日 (朝刊)
22 四方義啓本学名誉教授が中日新聞「紙つづて」の新しい筆者に選ばれた	12.22 (火)	中日 (夕刊)
23 木下 専理学研究科教授らは、神経細胞の活動に伴って細胞外に大量に放出されるグルタミン酸シナプス周囲のグリア細胞が、吸収・浄化する効率を高めるしくみの一端を明らかにした	12.23 (水)	日刊工業
24 エッセー 心のしおり:命の出発点に戻る 文芸評論家青木 健氏法学部卒業生	12.23 (水)	中日 (朝刊)
25 益川敏英本学特別教授が1月4日から中日新聞夕刊「この道」に登場	12.24 (木)	中日 (夕刊)
26 全国大学ビブリオバトル2015首都決戦:優勝 河合さやかさん文学部3年生 河合さんの紹介した野田秀樹著「僕が20世紀と暮らしていた頃」が最高の「グランドチャンプ本」に選ばれた	12.24 (木)	読売
27 森 郁恵理学研究科教授らの研究グループは、神経細胞「シナプス」が別の神経細胞と結びつくことで形成されると考えられていた記憶の仕組みについて、1つの神経細胞だけでも記憶が形成されることを、線虫を使った実験で確認した	12.25 (金)	中日 (朝刊)
28 文部科学省が法科大学院に支給する補助金の配分率を公表し、本学は95%だった	12.26 (土)	中日 (朝刊) 他3社
29 本学は日本経済新聞社が実施した「ビジネスパーソンの大学イメージ調査」で、教育・研究力で20位になった	12.26 (土)	日経 (朝刊)
30 本学は国連ウィメンが進める「HeForShe」キャンペーンで世界の手本となる大学に日本で唯一選ばれたことについて松尾総長は「名古屋で幅広い変化を引き起こし、この地域の女性に惜しめない支援を与える」と語る	12.27 (日)	中日スポーツ
31 益谷央豪環境医学研究所教授らは、酸化的DNA損傷により生じる遺伝子の変異を抑制する新たなメカニズムを発見	12.28 (月)	日経 (朝刊)
32 宮田隆司本学名誉教授が会長を務める日本溶接協会は「2016年度 次世代を担う研究者助成事業」の助成対象者を決定し、廣畑幹人工学研究科准教授が選ばれた	12.29 (火)	日刊工業
33 加藤真平情報科学研究科准教授はアイサンテクノロジーと2016年1月から愛知県幸田町で無人の自動運転車の実現に向けた実験を開始することについて「過疎地で移動に困っている人を助けたい。幸田町をモデルに全国の他の市町村に広げていきたい」と語る	12.30 (水) 1. 4 (月)	中日 (朝刊) 中日 (夕刊)
34 経済産業省と大学の連携により学生が標準化や規格化を学ぶ「標準化講座」が広がり、本学でも講座 (MOT) を設置	12.30 (水)	日刊工業
35 東山哲也トランスフォーマティブ生命分子研究所教授と栗原大輔理学研究科特任助教らのグループは植物を丸ごと透明化し、中まで観察する新技術を開発	12.31 (木)	朝日 (朝刊)
36 山口颯也さん法学部1年生など「NPO 法人ドットジェイピー東海支部」で議員インターンシップを経験した学生らが選挙公報を愛知県議会議員選挙でも発行するよう求める提言書を愛知県選挙管理委員会や愛知県議会議長あてに提出	12.31 (木)	中日 (朝刊)
37 野依良治本学特別教授は理化学研究所が合成した新元素が、国際純正・応用化学連合に原子番号113番の元素として認定され、命名権を与えられたことについて「日本の科学史にとって画期的な成果だ」と語る	1. 1 (金)	日経 (朝刊)
38 新春座談会:天野 浩未来材料・システム研究所教授が静岡県知事川勝平太氏らと新年の展望を語り合う	1. 1 (金)	静岡新聞 (朝刊)
39 明日を語る2016:未来変える 科学力 天野 浩未来材料・システム研究所教授は、「もっと国としての戦略を真剣に考え、『この技術はものになる』という判断ができる『目利き』の人材を育てなければならない」と語る	1. 3 (日)	読売
40 愛知の国立大 4学長と知事語る 松尾総長は「全分野に共通する人づくりの基本は、グローバルに活躍できるリーダーを育てること」と語る	1. 4 (月)	中日 (朝刊)
41 備える3.11から 災前の策 第123回想定シリーズ②治安:田代 喬減災連携研究センター寄附研究部門准教授 地域ぐるみで防犯活動	1. 4 (月)	中日 (朝刊)
42 國枝理事は本学が開発した硬エックス線望遠鏡2台を載せた日本の天文衛星「アストロH」が2月に種子島宇宙センターから打ち上げられることについて「アストロHはこれまでの集大成。どうか成功してほしい」と語る	1. 4 (火) 1.10 (日)	中日 (夕刊) 日刊工業
43 この道①益川敏英本学特別教授:握手	1. 4 (月)	中日 (夕刊)

記事	月日	新聞等名
44 高橋 隆医学系研究科教授の研究グループは肺がん細胞が治療薬に耐性を持つ仕組みの一部を解明	1. 5 (火)	朝日 (朝刊)
45 本学は1月から山間部での自動運転の実証実験を開始し、森川高行未来社会創造機構教授は「システム全体を5年以内に完成させて、ほかの地域への展開もめざす」と語る	1. 5 (火)	朝日 (朝刊)
46 環境医学研究所所長に山中宏二同教授を選出	1. 5 (火)	中日 (朝刊)
47 第64回名大カフェ“Science, and Me”「出張「CiRA カフェ」in 名古屋 今宵限りのiPS Bar」開催：22日	1. 5 (火) 1. 8 (金)	中日 (朝刊) 読売
48 この道②益川敏英本学特別教授：予感	1. 5 (火)	中日 (夕刊)
49 時のおもりに「軽減」税率はまやかし「据え置き」でしかない 池内 了本学名誉教授	1. 6 (水)	中日 (朝刊)
50 この道③益川敏英本学特別教授：カチン	1. 6 (水)	中日 (夕刊)
51 あいち女性技術者・研究者活躍促進シンポジウム開催：26日 松尾総長が基調講演し東村副理事がパネルディスカッションに参加	1. 7 (木)	中日 (朝刊)
52 産業春秋：豊田章一郎全学同窓会会長は「いま一番、心配なのは中東です。あれが戦争になったら困りますね」と語る	1. 7 (木)	日刊工業
53 この道④益川敏英本学特別教授：泣いた	1. 7 (木)	中日 (夕刊)
54 林 秀弥法学研究科教授を電波監理審議会委員に選出する人事案を政府が衆参両議院に提示した	1. 7 (木)	日経 (朝刊)
55 生きものたちの時間 吉村 崇トランスフォーマティブ生命分子研究所教授⑩：メダカに学ぶ 日長の情報は遺伝子に	1. 8 (金)	中日 (朝刊)
56 市民公開講座「脳とこころの健康のために～メンタルヘルスを日常生活に生かす～」開催：10日 医学部附属病院中央診療棟3階で本学教授らが講演	1. 8 (金)	読売
57 若者まつりごと 18歳選挙権：お互い隣国情勢に無知 ⑦伊 材賢さん本学留学生	1. 8 (金)	中日 (朝刊)
58 この道⑤益川敏英本学特別教授：爆弾	1. 8 (金)	中日 (夕刊)
59 本学と大同大学、中部の企業が連携して開発している超小型人工衛星「ChubuSat-2」は本学が参画する日本のエックス線天文衛星「アストロH」とともに打ち上げられる前に、本学で最終的な動作確認が続いている	1. 9 (土)	中日 (朝刊)
60 この道⑥益川敏英本学特別教授：砂糖問屋	1. 9 (土)	中日 (夕刊)
61 紙つぶて：数学を超えて 四方義啓本学名誉教授	1. 9 (土)	中日 (夕刊)
62 JST20周年記念事業 公開対談「若い世代へノーベル賞科学者からの提言～科学技術で次の時代を切り開け～」開催：9日 赤崎 勇本学特別教授が京都大学山中伸弥氏と対談し「何をやるかと思うのが一番大事。自然界にはわからないことがたくさんあり、無限に活躍する分野がある」と語る	1.10 (日) 1.12 (火)	読売 他4社 日刊工業
63 病院の実力：脳卒中 医学部附属病院の治療実績が取り上げられる	1.10 (日)	読売
64 「ぼぶかる5」：知事賞 教育学部附属高等学校ダンスサークル	1.10 (日)	中日 (朝刊)
65 どうする名古屋城～私の思い～⑨：都市全体の戦略必要 名古屋学院大学教授江口 忍氏本学卒業生	1.10 (日)	中日 (朝刊)
66 ひゅ～まん愛知：持続可能な世界目指す 林 良嗣環境学研究科教授	1.11 (月)	読売
67 夏目 淳医学系研究科寄附講座教授は熱性けいれんについて以前は細菌性髄膜炎も疑って髄液検査をしていたが「経過が良好な子どもにまで、『何でも検査、薬』というのは不利益もある」と語る	1.12 (火)	朝日 (朝刊)
68 第8回「おもしろ科学教室」開催：11日 本学で行われた	1.12 (火)	中日 (朝刊)
69 この道⑦益川敏英本学特別教授：砲台	1.12 (火)	中日 (夕刊)
70 日本学士院学術奨励賞：林 正人多元数理科学研究科教授	1.13 (水)	中日 (朝刊) 他2社
71 佐藤彰一本学名誉教授が天皇、皇后両陛下の「講書始の儀」で「西洋中世修道院の文化史的意義」の講義を行った	1.13 (水)	中日 (朝刊) 読売
72 この道⑧益川敏英本学特別教授：銭湯の道	1.13 (水)	中日 (夕刊)
73 石田和人医学系研究科准教授は名古屋市立大学と生理学研究所の共同研究チームが脳出血でまひした運動機能がリハビリで回復する仕組みを解明したことについて「リハビリの結果、神経回路が再編されることを示した意義は大きい」と語る	1.14 (木)	読売
74 高校総体：フィギュアスケート女子 高畑香里さん教育学部附属高等学校1年生	1.14 (木)	読売
75 経済観測：地方再生を画餅にしないために 丹羽宇一郎本学名誉博士	1.14 (木)	毎日 (朝刊)
76 この道⑨益川敏英本学特別教授：図書館通い	1.14 (木)	中日 (夕刊)
77 須賀英隆医学部附属病院助教らのグループはヒトES細胞から機能的な下垂体ホルモン産生細胞の分化に世界で初めて成功	1.15 (金)	中日 (朝刊) 他2社
78 本学と連携協定を締結し研究成果と融資先の技術とのマッチングをするなど、日本政策金融公庫が中部地方でベンチャー企業への支援を強化している	1.15 (金)	日経 (朝刊)
79 朝日カルチャーセンター名古屋：「明治の夜明けと欧米文化～知られざるエピソード」前野みち子本学名誉教授、「チベットにおける仏性思想」谷口富士夫本学非常勤講師、「ファラオの献立」日本学術振興会特別研究員（配属先名古屋大学）河江肖刺氏	1.15 (金)	朝日 (朝刊)
80 この道⑩益川敏英本学特別教授：ばれた	1.15 (金)	中日 (夕刊)

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月24日(火)～2月19日(金)、  
2月29日(月)～4月15日(金)

場 所：博物館野外観察園  
セミナーハウス2階

時 間：10:00～16:00

休 館 日：土・日・祝日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

博物館野外観察園セミナーハウス  
サテライト展示

「名大の蛾 1. 秋～冬の蛾」(11/24～2/19)

「博物館友の会写真サークル 写真展」(2/29～4/15)



2月4日(木)～4月5日(火)

場 所：博物館2階展示室

時 間：10:00～16:00

入 場 料：無料

休 館 日：日・月曜日

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

第32回博物館企画展「ボタニカルアート作品展」  
「伊藤篤太郎生誕150年  
—初めて植物に学名を付けた日本人—」

[関連特別講演会]

場 所：博物館3階講義室

時 間：13:30～15:00

講演題目：「標本の収集と保管—その歴史と意義」(2/20)

講 演 者：秋山 忍氏 (国立科学博物館研究主幹)

講演題目：「初めて植物に学名を与えた日本人 伊藤篤太郎」(3/10)

講 演 者：岩津都希雄氏 (岩津皮膚科医院長・伊藤圭介の玄孫)

参 加 費：無料



2月10日(水)～5月31日(火)

場 所：附属図書館医学部分館  
2階入口ホール

時 間：9:00～20:00

(平日、3/22～31は17:00まで)、  
13:00～17:00 (土曜日)

休 館 日：日・祝日、3月26日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

附属図書館医学部分館 052-744-2505

附属図書館医学部分館ミニ展示会

「名古屋のセンパイ! 大正・昭和編  
—名古屋大学全学同窓会大学支援事業②—」

内 容：明治4年(1871年)の名古屋大学創基から昭和22年(1947年)の名古屋帝国大学が名古屋大学へと改称されるまでの、本学の前身校に在学、在職した著名人に関連する、入手が困難になりつつある古書も含めた図書、文書、写真、絵葉書等によるコレクションを展示公開する

[関連特別講演会]

3月15日(火)

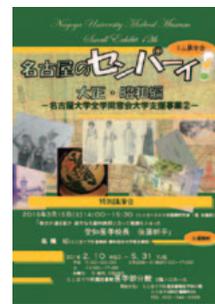
場 所：医学部基礎研究棟1階会議室2

時 間：14:00～15:30

講演題目：「衛生の道を拓き 雄大な先駆的視野に立って辣腕をふるった  
愛知医学校長 後藤新平」

講 演 者：高橋 昭 (本学名誉教授)

参 加 費：無料



2月10日(水)～3月26日(土)

場 所：減災館

時 間：13:00～16:00

休 館 日：日・月・祝日、第2・4火曜日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

減災館第14回特別企画展「『復興』事業を考える」

[スペシャルギャラリートーク]

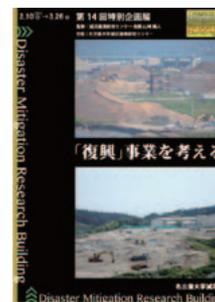
2月24日(水)

時 間：13:30～

場 所：減災館

講演題目：「『復興』事業を考える」

講 演 者：山崎雅人 (減災連携研究センター寄附研究部門助教)



## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

### 2月17日(水)

場 所： Junk堂書店ロフト名古屋店  
7階ブックサロン (名古屋市中区)  
時 間： 18:30~20:00  
定 員： 30名  
対 象： 一般  
参 加 費： 無料

### 第65回名大カフェ “Science, and Me”

講演題目：「体内時計に効く薬をめざして」  
講 演 者： 廣田 毅 (トランスフォーメティブ生命分子研究所特任准教授)、  
森田幹雄氏 (ラクオリア創薬株式会社シニア・サイエンティスト)  
内 容： 分子を使って体内時計の秘密を解き明かし、それを薬にしよう  
とする産学連携の取り組みについて紹介する



[問い合わせ先]

学術研究・産学官連携推進本部  
研究員 梅村綾子 052-747-6527

### 2月23日(火)

場 所： 情報基盤センター4階演習室  
時 間： 13:00~14:30  
定 員： 40名  
対 象： 一般  
参 加 費： 無料

### 平成27年度第11回情報連携統括本部公開講演会・研究会

講演題目：「大学図書館におけるデータサービスについて」  
講 演 者： 野見山敦史 (附属図書館情報サービス課調査支援係図書系係長)  
内 容： 本学で提供しているデータベースを中心に大学図書館のサービスの一端を  
紹介する  
講演題目：「オープンアクセスについて」  
講 演 者： 萩 誠一 (附属図書館情報システム課図書系課長補佐)  
内 容： 名古屋大学学術機関リポジトリの現状とその方向性を紹介する

[問い合わせ先]

情報推進部情報推進課 052-789-4368

### 2月25日(木)

場 所： 減災館1階減災ホール  
時 間： 18:00~19:30  
定 員： 100名  
対 象： 一般  
参 加 費： 無料

### 第118回防災アカデミー

講演題目：「津波と真の対策を考える」  
講 演 者： 畑村洋太郎氏 (株式会社畑村創造工学研究所代表取締役)



[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

### 2月27日(土)、3月5日(土)、5月21日(土)

場 所： 博物館2階展示室  
時 間： 14:00~15:00  
定 員： 200名 (立ち見あり)  
参 加 費： 無料

### 博物館コンサート NUMCo

「ウクレレデュオ」(2/27)  
演奏曲目：「ナプアモハラ (花は咲く)」、  
「メドレー (ふるさと、浜辺の歌等)」、他  
出 演： Yeh☆ie (イエーイエ)、  
千田初子氏 (フラ)  
「博物館が JAZZY になる」(3/5)  
演奏曲目：「さくら」、「スマイル」、他  
出 演： 長谷川智則氏 (サクソ)、  
西 彩子氏 (ヴォーカル)、  
牧野伸太郎氏 (ベース)、松永有希子氏 (ピアノ)、  
関野 勇氏 (ドラム)



「モンゴルの心 馬頭琴」(5/21)

演奏曲目：「スーホーの白い馬」、「草原の祝福」、他  
出 演： サランモル

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

名大トピックス No.273 平成28年2月15日発行

編集・発行/名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

表紙

第59回定期演奏会  
(医学部混声合唱団)  
(平成28年1月31日)



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ  
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

## 166 東山キャンパス四谷通東側エリアの変遷

東山キャンパスにおいて、最近になって景観が劇的に変化した区域が、四谷通に面した東側の一角です。この5年間に、目を引く校舎が実に4館も新築されました。

このエリアは、1939(昭和14)年に名古屋帝国大学が創立された当初は運動場でした。これは、創立時に策定されたキャンパス計画に基づくものです。医学部も東山へ移転する計画であったにもかかわらず、運動場をこのような位置に置くのは、戦後の発展を考えると少し余裕を持たせすぎであったようにも思われます。

その後、高度経済成長を背景に、国立大学の理工系学部の大規模な拡充が推進され、名大も工学部などの校舎を急いで増やす必要に迫られました。その場所の一つに選ばれたのがこのエリアです。1960(昭和35)年の名大の整備計画委員会において、当時の運動場の場所に工学部4号館を設置する方針が決められました。この時、同じ区域に大学本部棟も建てる予定でしたが、のちに変更されています。1961年

にいわゆる「山の上」グラウンドが整備された後、64年に工学部4号館が、67年に同5号館、同管理棟が新築されました。以後、増築を行いながらも、この3館が並び立つ状況が40年以上続きます。多くの方々には、この景観の印象が強いのではないのでしょうか。

それが、工学部4号館の耐震性能の改善と名大関係者3人のノーベル賞受賞を記念したES総合館(2011年)、南海トラフ広域地震防災研究プロジェクトによる減災館(2013年)、産学官連携による国際科学イノベーション拠点としてのNIC(2015年)、四谷通からやや離れますが、世界トップレベル研究拠点プログラム拠点としてのITbM(2015年)と、名大の過去と現在の最先端研究を背景とした新築校舎の竣工が相次ぎ、現在に至ります。

このエリアは、東山キャンパス中央の、しかも大通りに面した最も目立つ場所の一つなだけに、名大の歴史を映し出す鏡のような側面があるのかもしれません。



1	2	3
4	5	

- 1954(昭和29)年の航空写真。写真中央の空き地が当時の運動場。
- 1967(昭和42)年の航空写真。この年に完成する工学部5号館を建設中。
- 1987(昭和62)年の航空写真。工学部5号館を東側へ増築中。
- 2009(平成21)年の航空写真。工学部5号館の耐震・改修工事中。
- 2015(平成27)年の航空写真。